

## 第6章 これからの水道事業

### 1 基本理念

本町の最上位計画である「久御山町第5次総合計画」（平成28年3月策定）では、水道事業の基本計画を「良質な水の安定供給」、「緊急時における供給体制の確保」「水道事業経営の健全化」としています。

また、京都府の「京都水道グランドデザイン」（令和5年3月改定）では、将来にわたる安心・安全な水道水の供給体制の構築、という既計画の方針に加え、広域化の推進方針や具体的な取組内容も示されており、水道事業の効率的な経営やサービス水準の向上を図ることとしています。

本町の水道事業においては、今後、老朽化施設・管路の更新等を計画的に進めていかなければならないなかで、人口減少等に伴い料金収入も減少する見込みとなっており、経営環境はさらに厳しさを増すことが予測されます。

しかし、そのような状況においても、経営基盤の強化を図りながら、安全・安心で安定的な水道を、将来にわたって持続的に経営する必要があります。

そこで、本ビジョンでは、本町の総合計画やその他の計画、京都水道グランドデザイン等との整合性を図りつつ、「安全・安心で安定的な久御山町の水道を、水道事業者と使用者が一丸となって未来につないでいく」という思いを込めて、『安全・安心な水を未来につなぐ みんなで支えるくみやま水道』を新たな基本理念としました。

### 2 基本目標

本ビジョンでは、新たな基本理念『安全・安心な水を未来につなぐ みんなで支えるくみやま水道』を推進するため、「安全」・「強靱」・「持続」を3つの基本目標としました。



図 6.1 基本理念と基本目標の関係

なお、これらの基本目標を掲げるにあたっては、平成27年9月の国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成も考慮しました。

SDGsとは、誰一人取り残さない持続可能なよりよい社会を目指す、先進国も含め、すべての国が取り組むべき普遍的（ユニバーサル）な目標であり、目標実現にあたっては、各国政府のみならず、企業や地方自治体等、そして一人ひとりに至るまで、すべてのひとの行動が求められています。

本ビジョンの基本目標の考え方は、SDGsの目標6・目標9・目標11・目標13と共通するものであり、SDGsの達成に貢献するものです。

### 安全な水をいつも送る水道



いつでも安全・安心な水道水の供給を維持し、住民の暮らしを守り、産業を支える水道を目指します。

### 強靱で安定した水道



災害が起きても必要な機能を維持または速やかに復旧し、住民の暮らしを守ることで、強靱かつ安定した水道を目指します。

### いつまでも健全に持続できる水道



今後予想される人口減少社会においても、将来世代に良好な資産を残し、いつまでも使い続けられる水道を目指し、健全経営に向け取り組みます。

表 6.1 SDGsの詳細

目標	アイコン	目標の詳細
目標6 〔水・衛生〕		すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
目標9 〔インフラ・産業化・イノベーション〕		強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
目標11 〔持続可能な都市〕		包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
目標13 〔気候変動〕		気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

（出典：外務省「持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組」より）



